

# Book Review



## 歯科衛生士にも知ってほしい かみあわせの本 ペリオにもかかわるの？

中沢勝宏 著



Reviewer

松香芳三 Yoshizo Matsuka

(徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 顎機能咬合再建学分野)

B5判, 98頁  
オールカラー  
定価 (4,200円+税)  
医歯薬出版刊



中沢勝宏先生は顎関節症治療黎明期に顎関節症に関する研究を開始され、その後、顎関節症治療の専門家として日本のトップを走り続けておられる。顎関節症ならびに咬合に関しては非常に造詣が深く、これまでに多くの著書を執筆されている。

本書は、歯科衛生士が理解しておくべき日常臨床における咬合に関して「症例編」「知識編」「実践編」の3編に分けて、わかりやすく解説した珠玉の一冊である。

### ○症例編

症例編では、歯周病、咬合性外傷、咬合の違和感を有している患者に対し、咬合治療を実施することにより、口腔機能を正常に回復することが可能であることが示されている。また、同時に咬合治療により顎関節の安定や真の異常が発見されずに精神疾患扱われていた患者の救済などが可能であることも示されている。

これらの症例では、初診からメインテナンスまで歯科衛生士が深く関わることにより治療に誘導することが可能であったと言える。ブラッシング指

導、スケーリング、ルートプレーニングに始まる歯周病治療は歯科衛生士が積極的に実践する診療であり、咬合治療を行っていくためには必要な治療である。

また、長期間にわたる咬合治療において患者は種々の不安を感じやすく、それらを理解し、取り除くことも歯科衛生士としての重要な仕事の一つである。特に患者が歯科医師には尋ねにくい質問を歯科衛生士が聴取し、患者の希望を理解することは大切である。

症例編にはコラムが設定されており、臨床のヒントが多く記載されている。どのコラムも非常に大切な事項が記載されているため、歯科衛生士の方々は熟読、理解、記憶して診療に臨まれることを希望している。

### ○知識編

知識編では、歯科衛生士が理解しておくべき顎関節、筋、咬合、下顎位、下顎運動、咬合採得などに関する知識が多量の図とともに解説されている。これらの知識を有することにより、歯科衛生士としての診断・治療範囲が拡大し、目の前の患者の治療効果が向上

することが期待される。

### ○実践編

実践編では歯科衛生士が実際に行うべきチェックポイントが記載されている。これは中沢歯科医院の歯科衛生士業務を調査することにより作成された項目であるため、臨床に即している。ポステリアサポート、閉口運動、フレミタス、歯の動揺度、滑走運動、頬粘膜や舌縁の歯の圧痕などの診査は歯周病診査においても非常に重要である。また、テンポラリークラウン、インレー、スプリントの取り扱いや咬合を安定させるうえで大切である。さらに、患者の心のケアに関するアドバイスなどが記載されており、有益な情報であると言える。

このように、本書は歯科医療が多様化している時代に即したものであり、歯科衛生士業務には欠かすことはできない情報が盛り込まれている。咬合概念を歯科衛生士が有しておくことは非常に重要であり、歯科衛生士必読の一冊である。